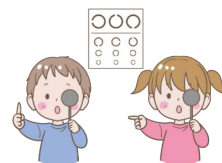


# あいいくだより 5月

## 子どもの弱視

なぜ、「3歳からの視力検査」が重要？



視覚の発達にはタイムリミットがあり、6歳～8歳頃には視覚の感受性は消失します。「視覚の感受性が消失する」までに視覚異常を発見し、治療を開始しなければ、生涯に渡って矯正視力は改善しない弱視になります。

タイムリミットは6歳～8歳頃ですが、年齢が上がると「視覚の感受性は下がる」ため、弱視治療の期間が長くなります。「視覚の感受性のピーク」にあたる生後3か月～1歳6か月に近い年齢ほど、弱視の治療効果は大きいので、治療期間は短縮できます。

3歳頃には視力検査が可能になり、視覚異常があると「ハッキリ見えない」ので見つかります。3歳頃までに視覚異常を発見し治療を開始すれば、小学校入学までに弱視治療を終えることができます。視力不良の負担なく義務教育を受けられます。視力検査が可能になる3歳頃が、視力検査を受けるのに最適な年齢といえます。

弱視になると!?



幼児期に視覚異常を見逃されて弱視になった子どもは、視力不良の負担をかかえて小学校に入学し、義務教育を開始します。黒板や教科書・タブレット画面の文字が「ハッキリ見えない」ために、学習能率が下がり、学習意欲の低下が懸念されます。

生涯学習社会を迎える中で、幼少児期から知的関心を失う子どもがでることが危惧されます。そのうえ、「ハッキリ見えない」と、将来の職業が限定されることにもなりかねません。

### 3歳児でもスムーズに受けられる視力検査



クイズで遊びながらランドルト環（C）に慣れる「たべたのだあれ？」視力検査があります。幼児にとってはクイズ遊びなのでゲーム感覚で楽しみながら、「短時間に、正確に」視力検査が受けられます。



↑ You Tubeで「たべたのだあれ」視力検査の練習ができます。

### 6月のわくわくサークルのお知らせ

日時

R8.6.24(水)  
10:00～13:00

パン教室



持ち物

- お子さん用のお茶
- エプロン
- バンダナ
- お手拭き

場所

西庄公民館  
2階調理室

愛育会のInstagram



坂出市愛育会